

教える喜びと学ぶ楽しさ



次長 祐川 秀永

平成27年度も残すところあとわずかになりました。ふと窓の外に目をやると、この時季見られるいつもの銀世界なのですが、今季はいつもより冬の訪れが遅く、最も遅い初雪の記録が青森市では55年ぶりに更新されたということが話題になりました。また、1月に西日本をおそった大寒波は、沖縄で観測史上初めて雪を観測するほどでした。このような地球環境の異変に不安を感じつつも、間もなく訪れる暖かな春を待ちわびながら過ごす今日この頃です。

さて、今年度の教育事務所長訪問は、前期分を6月から7月、後期分を9月から10月と2期に分けて実施し、管内の全小中学校を訪問することができました。訪問に際しましては、できるだけ多くの先生方の授業を参観させていただきたいというこちらからのお願いに御配慮していただき、ほとんどの学校で全ての先生方の授業を拝見することができました。御協力ありがとうございました。日程の都合上、わずかな時間しか参観することができない授業もございましたが、管内の先生方が毎日の指導に御努力されていることを強く感じ、頭が下がる思いでした。

所長に随行しながら訪れた教室には、様々な風景がありました。ある教室では、黒板に張られた資料を使い、子どもがみんなに自分の考えを説明している授業でした。一生懸命説明する子どもの話を先生も周りの子どもたちも温かいまなざしで聞き入る姿がとても印象的でした。また、ある教室では、それぞれの子どもが机に向かい、出された課題に取り組んでいました。静寂の中に張り詰めた緊張感と熱気のようなものが漂い、そのあとの展開がとても気になる授業でした。床一面に模造紙を広げ、グループで相談しながら調べたことを熱心にまとめている授業、パートごとに一つの輪になって美しい歌声を響かせている授業、強い日差しにも負けず校庭で力一杯体を動かしている授業など心に残る風景が数々ありました。そして、思い浮かぶどの授業にも、学ぶ意欲と活気に満ちた子どもたちと、その傍らには、子どもの反応に期待し、思いを込めて働きかける教師の姿が必ずあったように思います。教室全体が夢中になって学びを楽しむ子どもたちに溢れているのは、より良い成長を願い、教えることに多くの喜びを感じながら授業づくりをする教師の存在がとても大きいということを改めて感じた次第です。

各学校ではこの時期、新年度の諸計画づくりが着々と進められていることと思います。

特に教育課程の編成については、教育目標の実現に向け、自校が抱える学校課題の解決のための具体的方策を見直す話合いがなされているのではないのでしょうか。どうぞ管内の教職員の皆様におかれましては、無限の可能性を秘めた下北の子どもたちのために、平成28年度も変わらず、日々子どもたちの成長に喜びを感じながら、心身ともに健康を保ち教育活動を進めていただくことを心から願っております。



平成28年度学校教育指導の方針と重点

～授業の充実と研修の充実～

主任指導主事 氣 仙 宏

学校訪問や各事業に際して、多大な御理解と御協力をいただきまして、大変ありがとうございました。

小学校では、教材・教具の工夫等により、児童が意欲的に学習に参加する様子が見られ、中学校では、グループ活動を取り入れ生徒が思考・判断・表現する場の確保に努めるなど主体的に学習に取り組ませる様子が見られるなど着実に授業改善に取り組まれている様子が伝わってきました。

このような中で、本県の全国学力・学習状況調査の結果や、県内各管内の学校訪問の様子、指導案等を基に、『主体的に学ぶ力を育む学力向上推進事業に係る第2回学力向上アドバイザー会議』が行われ、そこでアドバイザーである文部科学省 田村学視学官よりいただいた本県の課題を示したいと思います。

- ①魅力ある課題の設定
- ②思考を伴う授業
- ③文字言語でのアウトプット



①については、地域教材を使ったり、導入を工夫したりするなど魅力ある課題の設定により主体的・協働的に思考・判断・表現する場や方法を工夫することが求められます。

②について、下北管内でも様々な言語活動が行われていますが、目的や必要性が曖昧な言語活動も見られ、思考が深まらない授業も見られました。ねらいを実現するために効果的な指導方法や学習形態を吟味し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、それらを活用する学習活動の充実にも努める必要があります。

③は、文字言語や音声言語を積極的に使って、情報のインプットとアウトプット、相互作用のコラボレーションを進めていくと、知識を活用する場面が多く出てくるという助言も頂いております。

また、指導案においては、ねらいと学習活動の整合性が図られていない場合も見られます。今後、ねらいの書き方の精度を上げることが必要となります。

その上で、児童生徒の状況を的確に見取り、必要な指導や支援に努めるなど、見届けのある教育活動となるよう配慮することが重要です。

次に、研修の充実についてです。

訪問を通して、ここ数年で研究協議会のもち方がだいぶ変わってきているように感じます。具体的には、次のようなもち方が多く見られるようになってきています。

- ①ワークショップ型の研究協議
- ②児童生徒の学びのプロセスを具体的に観察し検証する研究協議

①では、いくつかのチームに分かれて、授業の参観の観点に沿って付箋を用いて研究協議し、シェアリングをするという学校が数校見られました。全員が話し合いに参加し、付箋を動かし模造

紙に記入するなど活発な協議となっていました。

②は、事前に担当する児童生徒を決めて参観し、例えば自力解決場面でA君はどこまで書くことができ、どこにつまずきがあったのかを具体的に捉え意見を述べ合います。実際の児童生徒の姿から改善点を見いだそうとする話し合いは確実に日常の授業に生きると思います。

このようなことから、今、先生方が求めているのは、全員が参加し、児童生徒の具体的な学びのプロセスを基に協議し、授業改善に生かす取組のように思います。

アクティブ・ラーニングが授業の型を目指すものではないのと同様に、研究協議も型ありきではありません。児童生徒の深い学び、主体的な学び・協働的な学びのための授業改善を目指すものであってほしいと思います。

以下に1月の「教育課題連絡会議」において示した重点を掲載いたします。

各学校においては、これらの重点について実態と照らし合わせながらさらに焦点化するなど、本校の教育活動を点検する観点の一つとし、御活用いただくことをお願いします。

授 業 の 充 実

□目的（身に付けさせたい力等）と方法（授業の中心となる学習活動等）が明確な「ねらい」を設定し、「学習課題（学習問題）」、「学習内容・活動」、「まとめ」、「評価」の整合性を図る。

□ねらいを実現するために効果的な指導方法や学習形態を吟味し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、それらを活用する学習活動の充実に努める。

□個の学習状況に応じた全員参加の授業を構築するために、児童生徒の状況を的確に見取り、必要な指導や支援に努める。

□主体的・協働的に思考・判断・表現する場や方法を工夫する。

特 別 活 動 の 充 実

□学級活動において、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画させる活動や望ましい人間関係の在り方などを題材とした活動を積極的に行う。その際、話し合いやコミュニケーション能力を高める体験的な活動などを通して行う。

□児童会活動・生徒会活動において、学年や学級、学校全体での児童生徒の活動から、よりよい学校生活に向けた工夫・改善点等を出し合い、それを実現するための手立てを決めて取り組むなどの自主的な活動を計画的・継続的に行う。

生 徒 指 導 の 充 実

□協同指導体制の確立については、生徒指導の方針や教師の役割分担を明らかにし、基本的な生活習慣の定着と自己指導能力の育成に向けた計画・実践と反省・見直しを、生徒指導主任（主事）を中心として組織的に行う。

道 徳 教 育 の 充 実

□児童生徒の道徳性を養うために、学校の道徳教育の目標を明確にした上で道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に全教師が協力して道徳教育を展開する。

□道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して、児童生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる授業づくりをする。（※括弧内は中学校）

体 育 、 健 康 教 育 の 充 実

体育

□それぞれの運動のもつ特性や魅力に応じて、運動の楽しさや喜びを味わわせることを学習の中心に据え、体力や技術の向上を図る授業実践に努める。

健康教育

□健康に関する基礎的な知識や技能の習得を通して、児童生徒が健康課題に適切に対処し、健康な生活が実践できるよう家庭との連携を図る。

食育

□おやつの適切なとり方等、健康な食についての関心を高め、家庭と連携し、望ましい食習慣や食に関する正しい知識と実践力を身に付けさせる。

キ ャ リ ア 教 育 の 推 進

□児童生徒の発達の段階に応じて各教科等の関連を踏まえ、学年間あるいは校種間の連携を図りながら、教育活動全体を通じて体系的・系統的に実践を進める。

□児童生徒が主体的に取り組む活動の中で、互いのことを認め合ったり、心のつながりを感じたりできるようにする。

特別支援教育の充実

□特別支援教育に関する校内委員会等を組織的、計画的、弾力的に実施し、特別支援学級及び通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の実態や具体的な支援内容・方法・場面・役割などを明確にし、全教職員による校内支援体制の充実を図る。

□特別支援教育についての全教員の理解を深めるため、校内研修と関連させるなどして、研修の充実を図る。

□個に応じた指導を充実するため、児童生徒の障害の状態や学習の進度等を考慮して、個別指導や授業形態、集団の構成の工夫、児童生徒に関わる教師の専門性を生かした協力的な指導などにより、学習活動が効果的に行われるようにする。

□「個別の指導計画」に基づいて行われた学習の状況や指導の結果を適切に評価し、目標や課題、具体的な手立てなどを必要に応じて見直し、指導の改善に努める。

環境教育の推進

□持続可能な社会の構築を目指すため、環境教育の意義や必要性について全教職員で共通理解を図り、分掌を確実に位置付け、組織的・継続的に推進する。

□環境教育に関わる体験活動について、実施のねらいや身に付けさせたい能力や態度を明確にし、実感を伴った学習を進める。

情報化に対応する教育の推進

□各校の情報教育推進における課題を明確にしながら指導体制を整備し、身に付けさせたい情報活用能力を発達の段階ごとに整理して、年間指導計画の作成や見直しを進める。

□情報通信機器（パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機、音楽再生機など）によるインターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪や違法・有害情報などの問題を踏まえて、児童生徒の実態や発達段階を十分に考慮し、各段階における系統的な情報モラル教育を充実させる。

□体験活動を一過性のものに終わらせるのではなく、キャリア教育の視点でねらいを明確にし、他の教育活動と関連付けて事前指導・事後指導の充実を図る。特に、中学校の職場体験活動では、年間を通して事前指導（事前学習、直前の準備）・事後指導（直後の指導、事後学習、発表会の開催）の充実を図る。

研修の充実

□学校の教育課題の解決に向けた校内研修となるような研究主題を設定し、全教員で研修計画を十分検討し、共通理解を図る。

□授業研究においては、児童生徒が学ぶ姿を具体的に観察して分析し、研究協議によって明らかになった成果や課題を共有して、次回の授業研究や日々の授業実践に生かす。

国際化に対応する教育の推進

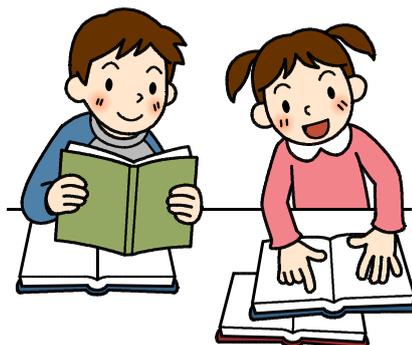
□我が国や郷土に関わる学習を踏まえ、諸外国の文化や風土等を理解し、それらに積極的に関わっていかうとする態度を育てる。

□中学校においては、4技能のバランス及び実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した言語活動を工夫し、繰り返し体験させる。

へき地・複式教育の充実

□複式学級において同単元同内容指導をする場合、それぞれの学年の発達段階を考慮した年間指導計画を作成するとともに、ねらいや評価規準の設定の仕方に配慮する。

□合同学習や集合学習、交流学習を行う際は、集団としての望ましい人間関係の育成だけでなく、各教科等の目標を達成するために、各学年のねらいや学習内容に配慮した指導計画を作成するとともに、指導体制を工夫する。



平成27年度 あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育実践事業

キャリア教育地区研修会を終えて

指導主事 岸 健一郎

本県では、教員一人一人のキャリア教育に対する認識に差が見られるため各学校における系統的・継続的なキャリア教育が十分に進展していない現状を踏まえ、各地区において研修会を開催するとともに、「青森県教育委員会キャリア教育の指針」及び「キャリアノート」の配布と活用促進を通じ、教員一人一人のキャリア教育に対する認識と指導力の向上を図ることをねらいとして、2年間にわたり取り組んできました。以下、その地区研修会について紹介します。

開催日 平成28年1月22日（金）

会場 むつ来さまい館

内容 ・事業説明
・研究指定校 実践発表

下北教育事務所

佐井小学校

佐井中学校

・講演「キャリア教育の現状と課題」 国立教育政策研究所

指導主事 岸 健一郎

教諭 眞嶋 朗晋

教諭 長岡 亮

総括研究官 長田 徹 氏

研究指定校による実践発表では、各学校から2年間にわたる研究の集大成を発表していただきました。それぞれの成果としては、佐井小学校からは「キャリア教育に対する職員や保護者の意識の変容と共通理解の深まり」「児童の内面や行動に関する望ましい変容や成長ぶり」、佐井中学校からは「日々の生活や授業が将来につながることに生徒の理解が深まったこと」「生徒の学習意欲の向上」などが挙げられました。



眞嶋 朗晋 教諭



長岡 亮 教諭

長田先生の講演は、心を打つお話から始まり、キャリア教育に関して納得のいくものばかりで、目の前の子どもたちへ確実に身に付けさせたい力や今すぐにでも実践していきたいことについての内容だったと感じています。また、参加した先生方からのアンケート結果は満足度も高く、「感動的でした。」「涙が出るくらい感動したお話を聞かせていただき、ありがとうございました。」「あつという間の講演でもっとたくさん先生のお話を聞きたかったです。」などの記述も多く見られました。長田先生から次のお話をいただき、胸に込み上げるものがありました。



長田 徹 先生

東日本大震災で、ある電気会社の社長が家族、従業員、会社、財産等、何もかも失い、その影響で避難所での生活では、食欲もない、眠れないという毎日でした。そのような中で、この社長が避難所で1本のドライバーを持って、電気屋としての技術を生かし、ラジオ、電灯、電気製品の修理を請け負うことにしました。そして、修理する度に避難所の方々から感謝されることで「自分にもやるべきことがある」という気持ちに変わり、そのためにきちんと食べて眠り、生きる決意を新たにしました。

人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という「自己有用感」から「生きる」「命を大切に」という決意にまで至ったお話でした。やはり、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価の大切さを改めて感じる機会になった素晴らしい講演だったと考えています。



今年度行われた独立行政法人教員研修センター及び県教育委員会主催の各種研修会等への参加状況をお知らせいたします。

◆教職員等中央研修[つくば市]

町田 晋一 (牛滝小学校教頭)

佐藤 和也 (川内小学校)

葛西 和人 (大平中学校)

◆英語教育推進リーダー中央研修

[東京都、つくば市]

肥田木 潤一 (田名部中学校教諭)

■県総合学校教育センター教員研修講座等の講師

○新規採用学校栄養職員研修Ⅱ

石井 祐子 (田名部中学校栄養教諭)

○栄養教諭・学校栄養職員5・10年経験者Ⅰ

中村 佳未 (大平小学校栄養教諭)

○教務主任研修講座

中村 邦夫 (佐井中学校教頭)

○これからの授業を考える！剣道研修講座

二階 幸喜 (奥戸中学校教諭)

■県総合学校教育センター教員研修講座の発表者

○教務主任研修講座

山本 光 (大間小学校教諭)

○公民的資質の基礎を養う中学校社会科教育講座

佐藤 雅布 (むつ中学校教諭)

○小学校高学年の教科化へつなぐ外国語活動研修講座

和田 真木子 (脇野沢小学校教諭)

■その他

○初任者研修実施協議会委員

藤田 彰彦 (大畑中学校校長)

○授業改善ハンドブック作成委員

成田 弘美 (苫生小学校教諭)

○へき地・複式教育ハンドブック (生活科編) 作成委員

石川 依子 (正津川小学校教諭)

○特別支援学級等指導員

吉川 医 (第二田名部小学校教諭)

齋藤 和加子 (苫生小学校教諭)

藤本 陽子 (東通中学校教諭)

○教育支援委員会専門員

安藤 出 (第三田名部小学校教諭)

川岸 浩子 (近川中学校教諭)

◆道徳教育指導者養成研修

(ブロック別指導者研修) [山形市]

野澤 新乃介 (奥戸中学校教諭)

須藤 園佳 (佐井小学校教諭)

◆小・中学校事務職員研修[つくば市]

宮澤 隆祐 (田名部中学校事務主幹)

■県総合学校教育センターの

教員研修講座の推薦等の受講者

○小・中学校ミドルリーダー研修講座

扇谷 欣展 (苫生小学校教諭)

齊藤 靖浩 (大平中学校教諭)

○小学校体育科研修講座

丹藤 愛 (第二田名部小学校教諭)

吉田 理 (苫生小学校教諭)

○みんなで考える健康な学校づくり研修講座

原田 正樹 (関根小学校教諭)

矢越 弓弦 (大平小学校教諭)

江村 健太郎 (大平中学校教諭)

船水 拓哉 (近川中学校教諭)

○指導者が変われば選手が変わる！運動部活動研修講座

佐藤 嘉樹 (大畑中学校教諭)

三浦 晋平 (大平中学校教諭)

○効果的にICTを活用する授業実践講座

菩提寺 学 (奥戸中学校教諭)

○長期研究講座

竹林 千亜紀 (東通小学校教諭)

■表彰校等

○青森県学校給食表彰

むつ市立奥内小学校

○ハートフルセミナー実施校

大間町立大間中学校

